

記載例

届出している廃棄物管理責任者の氏名を記入してください。
 (※) 会社代表者が責任者の場合は、会社代表者の氏名を記載してください。
 (※) 押印は不要です。

表内へのデータは、白色欄のみ入力してください。
 (※) 色付きセルは自動計算されます。
 (※) 手書で作成する時は、色付きセルの合計等も記入してください。

事業系一般廃棄物減量等計画書 ①

令和 6年 5月 15日

事業者	事業所の名称	株式会社〇〇 寝屋川支店
	廃棄物管理責任者名	寝屋川 太郎

「資源化量」欄に、リサイクル量(ごみとして廃棄せず、古紙や缶の回収業者等に出した量)を記載ください。

(※) 重量がわからない場合、45ℓポリバケツ1袋を7.6kgとして計算した概算額を記載ください。

寝屋川市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例第13条の規定により、事業系一般廃棄物減量等計画書を下記のとおり提出します。

計画が未定であっても、見込量を記載してください。
 (記載例: ごみ量が前年度から増加見込が無い場合、前年度と同量程度を記載するなど)

1. 廃棄物減量等計画書及び実績

※表中の色付き欄は自動計算の欄で、入力不要です。但し手書きで作成する場合は色付き欄にも数値を記入ください。

この値を、計画書の②7(1)に入れてください。

この値を、計画書②7(2)に入れてください。

(1)(2)以外の一廃を(3)に記載してください。

(1)(2)(3)に明確に分けられない時、(3)にまとめて記載ください。

「その他」(8)(9)は、(4)~(7)に当てはまらない産廃を記載ください。

※2つ以上あって書ききれない場合、(8)又は(9)に「その他」と表記し、まとめて記載ください。

※産廃となる紙くず・木くず・繊維くず、動植物性残さ等や、特管産廃(感染性の医療廃棄物等)もここに記載ください。

	令和6年度計画(又は見込)			令和5年度実績		
	発生見込量 (A) = (B) + (C)	処理内容 (B)処分量 (トン/年)	資源化量 (C)資源化量 (トン/年)	発生総量 (D) = (E) + (F)	処理内容 (E)処分量 (トン/年)	資源化率 (G) = (F/D) × 100 (%)
一般廃棄物(一廃)						
紙類						
①OA紙	0.10t		0.10t	0.10t	0.10t	100.0%
②OA紙以外(パンフ・チラシ等)	1.50t		2.00t	2.00t	1.50t	75.0%
③機密文書(保管切れ書類含)	0.20t		0.20t	0.20t	0.20t	100.0%
④新聞紙	0.20t		0.20t	0.20t	0.20t	100.0%
⑤雑誌						
⑥ダンボール類	100.00t		100.00t	100.00t	100.00t	100.0%
⑦その他の紙	2.00t	2.00t		2.00t	2.00t	0.0%
(1)紙小計(①~⑦)	104.00t	2.00t	102.50t	104.50t	102.00t	97.6%
(2) 厨芥(茶殻・残飯・魚あら、揚げかす等)	35.00t	20.00t	15.00t	35.00t	25.00t	28.6%
(3) その他燃やすごみ(タバコの吸殻、使用済ティッシュ、床掃除のごみ等)	3.00t	3.00t		3.00t	3.00t	0.0%
一廃 小計(1)~(3)	142.00t	25.00t	117.50t	142.50t	30.00t	78.6%
産業廃棄物(産廃)						
(4) 空き缶類	1.00t		1.00t	0.50t	0.50t	100.0%
(5) 空きびん・ガラス類	3.00t	3.00t		2.50t	2.50t	0.0%
(6) プラスチック類(トレイ、ペットボトル、緩衝材等)	5.00t	5.00t		5.00t	5.00t	0.0%
(7) 油脂類						
(8) 粗大ごみ	5.00t	5.00t		7.00t	7.00t	0.0%
(9) その他						
産廃 小計(4)~(9)	14.00t	13.00t	1.00t	15.00t	14.50t	0.50t
合計	156.00t	38.00t	118.50t	157.50t	44.50t	112.50t

※表中の「資源化量」欄には、リサイクルルート等に乗せ、資源化を目的として行った量を記入してください。
 ※重量を把握していない場合は、45ℓポリバケツ1袋あたり7.6kgとして計算してください。

現在、廃棄物減量のために実施していること	今年度、廃棄物減量のために計画していること
<ul style="list-style-type: none"> 毎日の朝礼時にごみを減量するよう従業員に伝達。 空き缶・空きびんをリサイクルしている。 生ごみを水切りしている。 休憩室にごみ減量を貼紙 賞味期限が近い食品の値引販売を実施。 など 	<ul style="list-style-type: none"> 紙の使用を減らすため、ストックボックスを置く。 余ったダンボールの市民持帰りサービスを実施する。 朝礼時のごみ減量周知を継続して実施する。 社外のフードバンクを活用する。 など

2. 事業所の概要

(1) 建築物の所有者	株式会社〇〇
(2) 建築物の規模	地上 4 階 ・ 地下 階 延べ床面積 約 3,000 m ²
(3) 設立年月日	M. T. S. H. R. 60 年 1 月 1 日
(4) 従業員数	約 500 名
(5) 環境衛生担当者の有無	有 ・ 無

事業所内で、ごみ減量等の環境衛生の担当者が指名・指定等されている場合(廃棄物管理責任者が担当者を兼務している場合を含む。)は、有に○をつけてください。

ごみ減量に向けた取組について、左に「既に取り組んでいること」を、右欄に「今年度の取組予定」(前年度と変わらない場合「前年度と同じ」等の表記も可)を記載ください。

赤字説明に従い、「指定業種(製紙業等)」から出る紙ごみは、産廃の「その他」欄に記載ください。

それ以外の一廃の紙ごみ(事務所から出る用紙類や、販売業で出るダンボール等)は、この①~⑦に記入してください。

「⑦その他の紙」には、①~⑥に入らない一般廃棄物の紙ごみ(リサイクルできない汚れた紙やと特殊な紙、区別がわからない紙等)を記載ください。

(1)~(3)の合計を記載ください。
【注意!】 (1)の紙小計には①~⑦の紙類の内訳が含まれますので、(1)を二重計上しないよう、ご注意ください。

(1)④の新聞紙や⑥のダンボール類、(2)の魚あらや揚げかす、(4)~(7)の空き缶や空きびん、ペットボトル・油脂類等を「資源化量」として回収(リサイクル)している場合、この表に数値を記入するとともに、別紙(減量等計画書②)の「6. 資源回収業者」の欄にも「品目」「業者名」等を記載ください。